



先住忌(洞光大和尚一周忌) 6/20  
導師 本寺 耕雲寺 山本宗彦老師

# 乗雲

寺報 第73号

H20.7.10 発行  
 広蔵寺  
 〒959-2646 新潟県  
 胎内市西栄町 2-8  
 TEL0254-43-2419  
 FAX0254-43-4560  
 振替  
 00650-4-5381

住職 神田英俊

E メールアドレス  
 otera@kogonji.jp

むじょうじんみちまうぼう びやくせんまんごうなんそうくう  
 無上甚深微妙法 百千萬劫難遭遇

がこんけんもんとくじゆじ がんげによらいしんじつぎ  
 我今見聞得受持 願解如来真实義

法華經にある経文で經典を読んだり、お経を上げる際にはまずこの一偈をお唱えします。「今お読みする經典はこの上ない甚だ深い意味のある教えです、百千萬劫という長い年月を経てもそのお経に遇うことは難しいものであるが、今我らは見ることに聞くことができました。こんな有難いことはない。しっかりと確かにお釈迦さまの真實の教えを勉強いたします。」という誓願文です。

一劫の長さは、「盲亀浮木の縁」に喩えられる。太平洋の海の底に一匹の目の見えない亀が住んでいて、この亀は百年に一返、呼吸をするために海上に浮かんで顔を出す。たまたまそこに穴が一つあいた板切れが流れていて、亀は目が見えないので海上に顔を出したとき、その板ぎれの穴に顔をつつこんでしまった。こんな偶然の出来事がもう一度起こるまでの間を「一劫」という。それが百千萬劫とあるから人間の考えの及ばないほどの時間の長さを言う。

道元禪師は、「いたずらに過ごす月日は多けれど、道を求むるときぞ少なき」と詠んでいる。段々と年を重ねてくるにつれ一日、一週、一月、一年の過ぎるのは早いと感じるようになります。せつかく尊い教えに遇うことができたのだから、その教えを学び、充実した毎日を送ることを心がけましょう。

「うかうか生きても一生、深々と生きても一生」